

樺太甲蟲類雜記 (II)

玉貫光一

Miscellanea of the Coleoptera-species in Saghalien
Island, II. By KÔICHI TAMANUKI.

II. 南樺太産ケシキスヒ科の未記録属

On the Unrecorded Genera of the Nitidulidae from
South-Saghalien Island.

従来樺太から記録せられた該科の甲蟲は甚だ少く、松村博士(註1)が發表せられたイラクサケシキスヒ *Brachypterus urticae* FABRICIUS・フグマケシキスヒ *Melegethes ogumae* MATSUMURA の2種竝に私が報告した(註2)カクムネケシキスヒ *Glischrochilus quadripunctatus cruciatus* MOTSCHULSKY の3属3種にすぎない。私は既往數年來興味を持つて本科昆蟲の棲息所たる花上や樹液等を注意した結果、本島未記録の多數種類を發見し得たので次に其の一端を紹介しようと思ふ。

本邦産のケシキスヒ科は古く EDMUND REITTER 氏によつて JORGE LEWIS 氏採集標本の前後數回に亘る研究があるので、その整理は左程至難でない様に思はれるが、何しろ *Melegethes* や *Epuraea* 属等の種類は何れを見ても同じ様で却々手を着け難いし、又 *Brachypterus* や *Carpophilus* 属等の微小種は顯微鏡を使用しなければ充分な分類をなし得ない等、完全な記録をなすに容易でない事情のものが多々ある。従つて次に記録する種類は樺太のケシキス

(註1) Erster Beitrage zur Insekten-Fauna von Sachalien (東北帝國大學農科大學紀要 Vol. IV, No. 1, p. 116), 1911.

(註2) 南樺太産6種の未記録種竝に2新異常形の甲蟲(動物學雜誌第39卷、第460號、p. 77, fig. 1), 1927.

〔昆蟲 第6卷第3號 昭和7年(1932)〕

ヒ科甲蟲の未記録屬全般に亘るものでなく、比較的分類に樂なもののみで、微小なものや未だ同定に自信のないもの等は次の研究に譲つた。

種の記載は日本文で記録せられた事のないと思はれるものだけに止め、普通種で有名な圖譜等に記載せられてあるものは可及的之を明記した。

本研究は北大昆蟲學教室の内田・河野兩博士竝に五十嵐勝己氏等の御厚意に預るところが頗る多い、記し以て謝意を表するものである。

Subfamily Nitidulinae

ケシキスヒ亞科 (新稱)

觸角は11節、球桿部は2乃至3節より成り、體は大部分幅廣く卵形を呈し、胸背板と翅鞘とは密着するもの多し。

屬竝に種の記載

Genus *Omosita* ERISCHON

コバンケシキスヒ屬 (新稱)

ERISCHON, in Germ. Zeitschr. IV, p. 298 (1843).

Saronia 竝に *Eपुरaea* 兩屬の中間に位するものにして、胸背板の基部中央には1對の窩を有し、翅鞘には不規則なる點刻を有す。接合部の外縁線は完備し(*Eपुरaea* 屬は外縁線を缺く)、翅鞘末端は圓形にして、尾節板の大部分は翅鞘に覆はる。

本屬は更に下記2亞屬に分たれ、本島に産するものは *Saprobia* 亞屬に入る。

1. 胸背板上には縦溝を有し、翅鞘は幅廣く、其の側縁は末端近く迄同幅なり subgen. *Omosita* ERISCHON
2. 胸背板上には縦溝を缺き、翅鞘側縁は末端に至るに従ひて狹まる subgen. *Saprobia* GANGRBAUER

Omosita (Saprobia) colon LINNÉ コバンケシキスヒ (新稱)

Silpha colon LINNÉ, Syst. Nat. ed. X, p. 362 (1758).

Omosita colon LINNÉ, REITTER, Fauna Germanica (Käfer) III, p. 29, pl. 84, f. 4 (1911).

黒色に燻り、稍々扁平なる甲蟲なり。頭部黒色、粗き點刻を密布し、觸角は明るき褐色、球桿部は暗色、大腿は暗褐を呈す。

胸背板は黒褐、前半は淡色、不規則なる點刻と灰色の微短毛とを密生し、側縁は前方に狭まり、弓狀に彎曲し、其の基部は翅鞘の基部より僅かに狭く、稍々鋭き後角を形成し、最も幅廣き部分は基部より少しく上方に在り。側縁竝に前縁は甚だ薄く、上方に少しく捲昇し、後縁に近き略々中央には1對の窩を有す。

稜狀部褐色、點刻を密布す。

翅鞘は黒色、胸背板と同様に不規則なる凹刻と灰色微短毛を有し、多數の黃褐色の斑紋を有す。此の斑紋は前半に存するものは小にして多數散布し、肩部に1箇、稜狀部附近に3箇、中央側縁近くに1箇ありて、稜狀部の側縁のものは最も大きく楔狀を呈す。後半に有するものは大きく然も只1紋にして、後縁の全部に亘り、略々工字形を呈す。

腹面は黒色、脚は黃褐なり。

體長——3 耗、 體幅——1.5 耗。

產地——大泊、10/VII, 1928、雄1頭。小沼、22/V, 1932、雄1頭。

分布——北海道・本州?・歐洲・西比利亞。

Genus *Cychramus* KUGELANN

マルケシキスヒ屬 (新稱)

KUGELANN, in Schneid. Mag. I, V, p. 543 (1794).

半球形にして全面に厚き點刻と黃色軟毛を密生す。觸角の球桿部は長く、且幅廣くしてその接合は一方に扁す。胸背板は前方に弓形に強く狭まり、後角は翅鞘の肩部を覆ひ、Humeralwinkel は幅廣く、圓形を呈す。

本属は此の次に位する *Pocadius* 属と跗節の幅廣きこと、竝に前胸腹板の骨狀突起 (Prosternalfortsatz) の先端の角張らざること等によりて識別し得らる。

1. *Cychramus floricola* REITTER ヒメマルケシキスヒ (新稱)

Cychramus floricola REITTER, Wiener Ent. Zeit. p. 43 (1885).

頭部竝に胸背部は下向せるため球形を呈し、體色黄褐、同色の軟毛を以て被覆せらる。

頭部小、觸角黄褐、球桿部は暗色なり。

胸背板は幅廣く、長さの約2倍あり、基部廣く前方に甚だしく彎曲し、中央部は穹窿狀に膨起す。全面に微小なる凹刻密布す。

稜狀部は舌狀にして、全面に凹刻と黄灰毛を密生す。

翅鞘は基部廣く後方に到るに従ひて狭まり、胸背板同様に中央は穹窿狀に膨起し、淺き微小なる凹刻と、稍々長き黄灰色の微毛を以て覆はる。

尾節板も亦翅鞘・胸背板等と同色にして微小なる凹刻を密布す。

腹面黄褐、背面に有するが如き黄灰毛を缺く。

脚は黄褐色を呈す。

體長——5 耗、 體幅——3 耗。

產地——南樺太全般。

分布——北海道。

本種は *C. Lewisii* REITTER に酷似するも、觸角球桿節黑色にして體色は黄色を帶び居るを以て區別し得らる。

2. *Cychramus quadripunctatus* HERBST ヨツボシマルケシキスヒ

Stolongylus quadripunctatus HERBST, Käfer, IV, p. 184, t. 43, f. 4 (1792).

Cychramus quadripunctatus HERBST, YOKOYAMA, Zoku Nippon no Kôchu p. 113, pl. 15, fig. 7 (1931); MATSUMURA, Nippon Konchû Daizukan (Illustrated Insects of Japan-Empire) p. 143, fig. 211 (1931).

產地——南樺太全般。

分布——北海道・本州・歐洲（中部及び北部）。
 本種は比較的多いもので夏日、バラ 其の他の灌木で採集する事が出来る。
 西比利亞からは未だ記録せられて居ない様だが、多分分布してゐるものと思ふ。

Genus *Glischrochilus* (MURRAY ined.) REITTER

オニケシキスヒ属（新稱）

REITTER, (subg. *Ips*) Syst. Eintheil, Nitid. p. 162 (1873).

體長形、大體 parallel にして胸背板は翅鞘より幅廣く、平行或は前方に狭まる。本属は其の直前に位置する *Cryptarcha* 属とは背面の無毛なることによりて、又其の直後に位置する *Pityophagus* 属とは體の圓筒形ならざる點等に於て區別せらる。本島に産する種類は下記 2 亞属に含まる。

本島産種亞属竝に種の検索表

- I. 體厚く稍々丸味を帶び、胸背板の側縁は前方に狭まる
 subgen. *Librodor* GANGLBAUER
 1. 胸背板は橙黄色にして 5 箇の黒紋を有す . . . *pantherinus* REITTER
 2. 胸背板には斑紋を缺く。
 - a. 胸背板は前方に狭まり、體色は少しく褐色を混じ、翅鞘の斑紋は黄色にして多角なり *ipsoides* REITTER
 - b. 胸背板は略々四角形、體漆黑、翅鞘の斑紋は橙黄色にして略々同形なり *subcylindricus* REITTER
- II. 體平たく、胸背板の側縁は前方に擴がる
 subgen. *Glyschrochilus* MURRAY

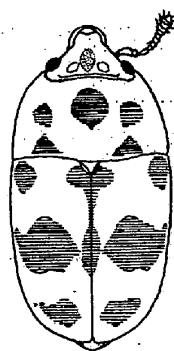
翅鞘の前半に α 字形の黄紋を有す . . . *4-punctatus cruciatus* MOTSCHULSKY

 1. *Glischrochilus* (*Librodor*) *pantherinus* REITTER **ヘウモンオニケシキスヒ（新稱）**

Cryptarcha pantherinus REITTER, Deutsche Ent. Zeits. p. 217 (1879).

體黃褐、胸背板竝に翅鞘に黒色の斑紋多き種類なり。

頭部には稍々密なる點刻を散布し、後方に到るに従ひて粗となる。觸角黃褐、球桿部は暗褐を呈す。頭頂より頭楯に跨りて3對の淡黒色の斑紋を有



Glischrochilus (Librodor) pantherinus REITTER. ×7.

し、中央に存するものは最大にして菱狀を呈し、その兩側のものは之の後端近く横置し、淡色なり。

胸背板の側縁は前方に狹まり、點刻を散布し、密度は頭部の夫と略々同様なるも、遙に淺し。板上には5箇の黒紋ありて、中央外縁に近き心臟形の大紋を中心として其の兩側に同形の1對を有し、更に其の下方後縁に接したるところに1對の楔狀紋有り。

稜狀部は稍々大きく扁平なる三角形を呈し、前縁には凹刻を散布す。

翅鞘は胸背板の約2倍強の長さにして後方に軽く狹まり、全面に胸背板と略々同一密度の點刻あり。翅鞘上の斑紋は3對にして、第1紋は肩部にありて長形、第2紋は稜狀部の兩側より接合部に添ひて翅鞘の中央部に達し、之より兩翼に擴大せる最大の1紋にして、第3紋は末端に近く横置す。尾節板は黃褐にして弱き凹刻を散布す。

腹面は暗色にして黃褐の短微毛を有し、腹部環節の末端は暗褐なり。

脚部は一様に黃褐色を呈す。

體長——5 耗、 體幅——3 耗。

產地——小沼、30/VII, 1930、1 頭。

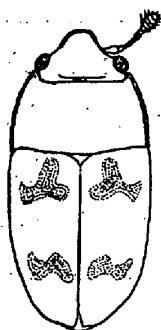
分布——北海道・本州・東シベリヤ。

本種は甚だ僅少な種類の様で、私はハンノキの樹液に集つてゐたものを1頭採集したに過ぎぬ。

極東西比利亞にも分布するもので、LUCAS VON HEYDEN²⁾ はウラジオストック附近に存するアスコルド島竝にハバロフスクの2箇所から採集せられたことを報告してゐる。

2. *Glischrochilus (Librodor) ipsoides* REITTER コヨツボシケシキスヒ*Cryptarcha ipsoides* REITTER, Deutsche Ent. Zeits. p. 218 (1879).*Glischrochilus ipsoides* MATSUMURA, Nippon Konchiû Daizukan (Illustrated Insects of Japan-Empire) p. 144, f. 214 ♀ (1931).

前種と略々同大の種類にして、體漆黑、翅鞘には4箇の黄色紋を有す。頭部には稍々密なる點刻を散布し、觸角は暗褐、球桿部は濃色なり。



Glischrochilus (Librodor) ipsoides REITTER. ×7.

胸背板は基部廣く前方に到るに従ひて狭まり、側縁は褐色なり。

稜狀部は扁平なる舌狀にして前半には深き凹刻を有し、前縁は黄褐なり。

翅鞘は胸背板の約2倍の長さにして一様に浅き凹刻を密布し、之に2對の黄色紋を装ふ。第1紋は前半にありて人字形を呈し、其の端部は翅鞘前縁の近くに達す。第2紋は中央より稍々下方に横置し、S字形に彎曲す。尾節板は翅鞘に比して少

しく褐色を呈し、之に微少なる凹刻を密布す。

腹面黑色、黄褐色の短微毛を有す。

脚部は暗褐にして光澤あり。

體長——5耗、體幅——3耗。

產地——小沼、10/VII, 1929、1頭。

分布——北海道・東シベリヤ。

本種も亦僅少な種類の様で、ニレノキの樹液から只1頭を採集した。前種同様極東シベリヤにも分布するものであるが其の地方名は明でない。

3. *Glischrochilus (Librodor) subcylindricus* REITTER オニケシキスヒ

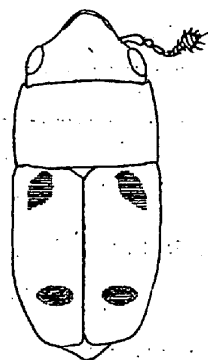
(新稱)

Librodor subcylindricus REITTER, Wiener Ent. Zeit. 101 (1885).

本科中の稍々大形の種類にして黑色、光澤を有し、翅鞘には2對の橙色紋を有す。

頭部は黒色、浅き凹刻を散布し、後頭には之を缺きたる部分あり。兩鬚赤褐、觸角は赤褐にして鈍き光澤を有し、球桿部は黒褐なり。

胸背板は長さよりも幅廣く矩形を呈し、稍々穹隆狀に凸起し、全面に凹刻を有し、中央部は粗にして且淺し。



Glischrochilus (Librodor)
subcylindricus REITTER.
×7.

稜狀部は扁平なる三角形にして前縁に僅かに凹刻を散布す。

翅鞘は胸背板の約2倍強の長さありて之に凹刻を散布し、後方に到るに従ひて判明せず。凹刻は胸背板のものに比して密なるも遙に淺く、數條の極めて淺くして不明瞭の縦線を裝ふ。

翅鞘上の斑紋は2對にして、第1紋は前縁に添ひて斜置し、稍々長形、第2紋は中央より少しく、下方に横置して共に橙色を呈す。尾節板は黒色、凹刻を密布す。

腹面は黒色にして微小なる凹刻と短微毛とを有す。

脚部は黒色、跗節は褐色なり。

體長——5~6.5 耗、 體幅——2.5~3 耗。

產地——小沼。

分布——北海道。

本種は稍々多い種類で、6・7 月の候ハンノキの樹液に集まつてゐるものを數頭採集した。

Subfamily Rhizophaginae (註 3)

エンマケシキスヒ亞科 (新稱)

觸角は10節、球桿部は1節より成り、其の形大きく、球狀を呈し、末端は輪狀に區切らる。體は細長にして、胸背板と翅鞘とは明らかに分離す。前

(註 3) 本亞科は學者によりて科として取扱ふ向もあるが (MÉQUIGNON⁴)、私はしばらく他の多くの甲蟲學者と同様に亞科として取扱ふ。

跗節は雄に限り4節なり。其の形状閻魔に似たれば上記の如き和名を附したり。

Genus *Rhizophagus* HERBST

エンマケシキスヒ属 (新稱)

HERBST, Kaf. V, p. 18 (1793).

體は細長にして、翅鞘には規則正しき點刻列を有し、先端は截斷狀に終る。上唇は頭楕に癒着し、觸角球桿部は1節にして甚だしく發達し、末端は輪狀に區切らる。

1. *Rhizophagus parviceps* REITTER チビエンマケシキスヒ (新稱)

Rhizophagus parviceps REITTER, Wiener Ent. Zeit. p. 102 (1835).

該属中の小形種に屬し、頭部は黒褐色にして少々深き凹刻を散布し、觸角は黄褐、第1・2節は甚だ發達す。

胸背板は黒褐にして少しく光澤を有し、幅よりも長さ少々勝り、側縁は輕く弓狀に彎曲し、中央の少しく前方に於て最も幅廣し。全面に少々深き凹刻を散布し、中央部の後縁近く極めて淺き窩を有す。前縁角は少々發達せるも後縁角は鈍し。

稜狀部は舌狀にして、長さよりも幅廣く、平滑なり。翅鞘は略々平行なるも、末端に向ひて極めて少しく膨れ、末端の直前に於て最も幅廣し。褐色にして規則正しき數條の凹刻列を有し、列間部は平滑、翅鞘の末端は截斷狀に終る。尾節板は黒色にして微小なる凹刻を密布す。

腹面黒色、微小なる凹刻を以て裝はる。

脚部は褐色なり。

體長——1.8~2.2 耗、 體幅——0.6~0.8 耗。

產地——小沼、30/V, 1929、雄2頭、雌1頭。

分布——北海道・本州・九州。

本種は歐洲や西利比亞に産する *R. parvulus* PAYKULL に酷似するが、少しく大きく、且胸背板上の凹刻強く、前縁角が發達してゐる事等によつて識別

出来る。標本は悉くハンノキの樹液に集まつてゐたものを採集したものである。

2. *Rhizophagus dispar* PAYKULL . . . アメイロエンマケシキスビ (新稱)

PAYKULL, Fn. Svec. III, p. 328 (1800).

本屬中大形の種類にして褐色、鼈甲色の光澤を有す。

頭部赤褐、凹刻を散布し、複眼間には浅き倒八字形の斜溝を有す。觸角は赤褐にして球桿部はよく發達し、黄色の微毛を裝ふ。口器の各部は赤黄、只大腮の末端のみ黒色なり。

胸背板は略々四角形にして幅よりも長さ少しく勝り、前縁は後縁に比較して稍々幅廣く、前・後兩角は鈍し。全面に凹刻を散在す。

翅鞘は末端迄略々同幅にして弱き波狀を描き、最も幅廣き部分は全體の約 $\frac{1}{4}$ 下方の部分なり。9 條の規則正しき凹刻列を有し、列間部は平滑なり。尾節板は體色と同色にして凹刻と微毛を有す。

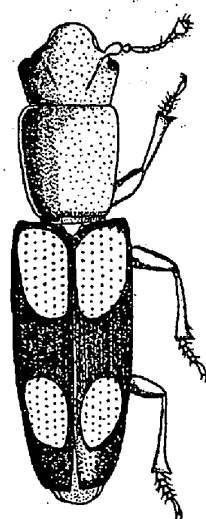
腹面は赤褐、背面と同様凹刻を散布す。

脚部は赤褐、中肢脛節の外縁末端に近く 1 刺を有す。

體長——4 耗、 體幅——1 耗。

產地——保呂 (東海岸)。

分布——歐洲・北アフリカ。



Rhizophagus dispar
PAYKULL. $\times 13$.

本種は個體によりて甚だしく色彩的變化を呈するものの如く、採集した 2 頭の標本は各其の色彩を異にし、1 頭は胸背板黒褐、翅鞘の側縁と中央部は黒褐を呈し、1 頭は歐洲産の原種の記載に略々一致するが、胸背板は暗色で、翅鞘の黒褐部は明瞭でない。

2 頭共にエゾマツの樹皮下、ヤツバキクヒムシ *Ips japonicus* NIISIMA の孔中より採集した。此の屬の種類はクヒムシ類の孔中にあつてその卵や幼蟲を捕食するものがあるのだから、或は本種はヤツバキクヒムシ其他のクヒ

ヒムシ科昆虫の卵や幼蟲を捕食するものかも知れない。

本種は *R. nitidulus* FABRICIUS に酷似するが、前肢脛節末端の極端に廣がらない事と、中肢脛節の外側の針は1本なるを以て區別せられる。

未だシベリヤからは記録せられて居ないが、此の地方にも亦分布してゐる事と思ふ。

引用文献

- 1) GROUVELLE, A., Coleopterorum Catalogus (W. Junk), Pars, 56 (1913).
- 2) HEYDEN, L., Catalog der Coleopteren von Sibirien, Nacht. I (1893).
- 3) KUHNT, P., Illustrierte Bestimmungstabellen der Käfer Deutschlands (1913).
- 4) MEQUIGNON, A., Coleopterorum Catalogus (W. Junk). Pars, 61 (1914).
- 5) REITTER, E., Die Nitiduliden Japans (Wiener Entomologische Zeitung), III. (1885).
- 6) ———, Fauna Germanica, die Käfer Deutschen Reiches, Band III (1911):
- 7) SCHAUFUSS, C., Calwer's Käferbuch, Band I (1916).
- 8) SCHÖNFELDT, H., Catalog der Coleopteren von Japan (1887).